



人に感染するアデノウイルスには 51 の種類があるといわれており、そのうちのいくつかが急性感染症を起こします。アデノウイルス感染症としては、咽頭結膜熱（プール熱）、流行性角結膜炎がよく知られていますが、そのほかにも、気道炎（鼻咽頭炎、気管支炎、肺炎など）、胃腸炎、結膜炎、膀胱炎などいろいろな臨床症状の感染症があります。発疹が見られる場合もあります。アデノウイルスには種類によって、1 型、2 型・・・と番号がつけられています。それぞれの型により、起こしやすい感染症がありますが、同じ型でも人によって咽頭炎が主であったり、結膜炎が主であったりと症状の出現部位がちがうこともあり、これは感染経路の違いによると考えられています。

多くのアデノウイルスは、潜伏期は 5～7 日で、感染経路は飛沫、直接接触によります。最近では簡単な検査（迅速診断キット）ですぐに診断ができるようになりましたが、型の診断は迅速診断キットではできません。

特別な治療法はありません。それぞれの症状に対する対症療法を行い、高熱がある場合や食欲不振がある場合は、安静にして脱水症にならないように水分補給をします。

予防としては、感染者とのタオルや食器の共用はやめます。

アデノウイルス感染症の中で、咽頭結膜熱（プール熱）と流行性角結膜炎では、学校保健安全法で出席停止の期間の基準が決められています。

咽頭結膜熱（プール熱） 主に 3 型、他に 4・7・11 型が原因。

発熱・のどの痛み、結膜炎が主症状です。熱は、1 日の間に 39℃～40℃の高熱と、37～38℃前後の微熱の間を、上がったたり下がったりが 3～5 日ほど続き、扁桃腺がはれ、のどの痛みをとまいません。頭痛、腹痛や下痢を伴うこともあります。耳介前部および頸部のリンパ節がはれる場合もあります。夏季に、幼稚園や学校のプールの水を介して感染することも多いことから、俗に“プール熱”とも呼ばれていますが、プールに入らなくても、飛沫や糞便を介して感染します。学校保健安全法では「主要症状が消退した後 2 日を過ぎるまで出席停止」と決められています。

流行性角結膜炎 8・19・37 型が原因。

目が充血し、目やにが出ますが、咽頭結膜熱のように高い熱はなく、のどの赤みも強くはありません。学校保健安全法では「病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで出席停止」と決められています。

